

お西さん

1999
11-12



本願寺函館別院本堂正面

年の瀬ですナァー

〔「蛸つぼ」に 果かなき夢や 夏の月〕
右の句は「奥の細道」で有名な俳人、松尾芭蕉師
(二六四四―九四年)のものである。

月光に映える夏の海、光が屈折しながら海に
沈められた、「たこつぼ」に「閃の光がよぎる。蛸は
餌を求めてこの「閃」に目的をもつが、何ものでも
なかった。

しかし住心地の良さに、ひかれた蛸の「休みが
食卓にのぼる。

師は、この句に人生を語りたかったのでなかる
うか。小林一茶師にも、このような句がある。

(魚どもや 桶ともしらず 夕涼み)
財産、名譽、地位に安住している人間を魚にみ
たてた時、この句が良く理解できる。

一年は早かった、問もなく師走となる
人間のあくなき欲望の中にあつて

小さな「つぼ」を居心地良しとし

小さな「桶」を安泰と心得る自らの愚かさを
しらされることこそ人生の荒海を越える仏教の

「智慧」ではなからうか。
「智」は「さとり」「慧」も「さとり」であった。

輪番 鷺山 諦住

ふれあいの寺本願寺函館別院

函館市東川町12-12 ☎(0138)23-0647

お知らせ

12月28日(火)~30日(木)は本堂の「御煤払い」と、御本尊の「御身拭」のため
月参りをお休みさせていただきます。



「感謝」

柏木町の永谷さん宅へは、いつも朝早い時間にお参りさせていただき、ご迷惑をおかけしておりますが、玄関を開けると明るく元気な声で挨拶をされ、笑顔絶やさない奥さんにも感謝しています。

奥さんは多趣味なんです、そのひとつに家庭菜園があります。いろいろな野菜を収穫して、仏様にお供えしておられます。今年の夏は暑い日が続いたから特に良かったとか。夏にはときどき海へ行き泳いだり潜ったりして生活を楽しんでおられたということ。

私にとっての楽しみは、「檀家さん宅への月参り」と言いたいところですが、なかなかそうは言えません。人の目や耳を気にしながらの「おつとめ」は、自分自身納得のできるものにはなりません。

仏さまへの「おつとめ」を、素直にできない自分に、恥ずかしさや情けなさが込み上げてくることばかりです。それでもこんな私を支えてくださったたり、勇気づけてくださる檀家のみなさまがたに感謝です。

(野川)

「ただいま熱中！」

谷地頭の柳谷さんの玄関を入りますとジャイアントの応援メガホンが壁に架かってました。お勤めが終わり振り返りますとそこにはジャイアントのユニフォーム

ーム。私が「巨人がお好きなんですかね」と聞きますと恥ずかしそうにニコリ笑い「五歳のころから大の巨人ファンなんです」と柳谷さん。「本当にお好きなんです」と言いますと「巨人が負けた日は悔しくて眠れないんですよ」とのこと。ふと自分を振り返りますと悔しくて眠れないほど何かに打ち込んだことがあったでしょうか。それだけ何かに打ち込める柳谷さんの思いとエネルギーがとても羨ましく見えました。今年の巨人は残念でしたが、来年こそはと言う思いでまた応援して下さい。私も何か一生懸命に打ち込めるものを見つけてゆきたいと思います。(高倉)

「時間って大切」

毎日、お参りさせて頂いて、御門徒の皆様との会話の中でよく話題になるのは皆さんの子供さんやお孫さんのお話です。

中道二丁目にお住まいの住吉さんのお孫さんは高校の部活で吹奏楽をされています。夏に行われた函館市の大会で優勝し、九月に行われた北海道の大会では準優勝したそうです。すごいですね。大会の他にも、いろいろな所でコンサートをやっているそうです。でも、住吉さんはお孫さんのことがとても心配な様子。「部活に一生懸命で全然勉強しないんですよ。来年は受験だし……どうするんだろうね。」とおっしゃってられました。

でも、私は思います。高校や中学の部活の体験は、とても大切なことだと思います。これから先、部活での経験は、きつと役に立つと思いますよ。ああ、部活をやつてよかった、と思うときが必ずあります。私も高校時代陸上をやつてましたが、練習などは大変で

したが、いい思い出ですし、陸上をやつてよかったと思うこともあります。

だから、住吉さん、お孫さんが部活に一生懸命、いいじゃないですか。その暖かい心で見守るのが一番いいと思います。(山岸)

「おさがり」

今年も年中行事のほとんどをお勤めすることができました。その中でも昨年とはずいぶん変わったところが見受けられました。お盆、お彼岸のお墓や納骨堂のお供物です。以前はお墓や納骨堂もお供物をお供えされたままで帰られる方がほとんどのように感じられました。

今年の秋のお彼岸では半数以上の方が、お供物を持ち帰ったり、その場で食べられたりしておられました。仏さまからの「おさがり」をそのままいただく。大切なことです。私達の普段の生活もすべてこの「おさがり」を頂いて成り立っていると思います。大自然からのおさがり、先達が残してくれた文明・文化からのおさがり、親・兄弟からのおさがり、友人知人からのおさがり。ぜいたくな世の中になった今日の日本では、「おさがり」の言葉のひびきすら、なんとなくはずかしかったり、かっこわるいかに感じたりしています。

私の命、そして私が生活していくことがすべて、「おさがり」を頂いていると私は思います。

先日、二度三度にわたって亀田町の金谷さんの奥様から子供服のおさがりをたくさん頂きました。我が子、蓮も頂いた服を着てすくすくと育っています。本当に有難うございました。(吉村)

「穴があつたら入りたい」

大縄町にお住まいの土田さん、先日奥様を亡くされ、さぞかしお寂しいことであつたでしょう。しかしながら、中陰のお参りに何うと東京にお住まいの娘さんとお孫さんが毎週函館へ来られ、「一緒にお参りをしたいので、時間を指定させて下さい。」と、ご相談を頂いたときは、その殊勝なお心掛けに驚愕するとともに、己の恥を気付かしめられたことでした。袈裟・衣を付けさせて頂く身でありながら、朝のご本堂のお参りに遅参することもあつた私。お恥ずかしい…。そのような私に、ご門徒のみな様方はいつも元氣と笑顔と励ましを頂き、みな様に感謝を表す言葉が見つかりません。かたじけない申し訳ない、お恥ずかしい、有り難い…。

(黒田)

「小さな小さなお仏壇」

とても暑かつた夏から一転して、急にめっきり寒くなりました。函館に来た当初は、周りの風景を見る余裕もありませんでしたが、ようやく仕事に慣れくると、辺りの木々が紅葉しはじめ、本格的な冬の訪れを感じ取ることができず。と同時に初めての北海道の冬の生活に不安を感じている今日この頃です。さて門徒さんの話を聞くと、お子さんが都会に離れて住んでいることが多く聞かれます。そんなとき僕が思い出すのがご門主様のご親教(ご法話)です。昨年、京都の本願寺で厳修された蓮如上人五百回遠忌法要の時に、具体的なお願いとして、いわゆるご本家だけでなく、故郷を離れてお住まいの方や一人住まいの学生の方にもご本尊お仏壇を備えていただきたい、

と述べられました。現代において形なしに子どもや孫にお念仏を伝えることは簡単ではありません。ぜひ何かの機会にご本尊(懐中名号)を贈られてはいかがでしょうか。

(野田)

「家族の一員」

時任町の井上さんのお宅へ先日、お参りに寄せて頂いたとき、玄関をあけて少ししてから、アレ何か違うなーと思いました。というのも、いつもでしたら玄関をあけるなり、ワンチャンがとんでくるのですが、それがなかったのでお参りのあと、お話を聞かせて頂く、つい先日亡くなったんですといわれました。十四年間もいたので家族の一員でした、ただ話しができないだけで、こちらの云うことは全てわかってくれました。少し悲しそうに話して下さいました。一つの命がなくなり、それがベットであっても、家族の人にとって、かけがえのない命です。あらためて「この命、ご縁を頂いて生かされておる命について考えさせて頂きました。」

(神田)

「手作りの暖かさ」

先日、日吉2丁目の三上さんのお宅にお伺いし、お仏壇の前に坐りお参りさせて頂きました。いつもと違う雰囲気気づきました。何が違うのかなと仏壇の中をよく見てみますと土香炉が変わっていました。「香炉を新しいものに変えたのですね」とお聴きますと、「その香炉、私が作った香炉なんですよ。」と言う返事。ピククリして「すごいですね」と感心しながら応えますと「今度は蠟燭立ても作ろうと思つて

いるんですよ。」とのこと。中々出来る事ではないと思います。ご自身で仏具を作るといふ事はすごい事だと有り難く思いました。そして、もう一度お仏壇の中の香炉をしみじみと見てみますと、三上さんの手作りの暖かさがにじみでていて心とむ思いをいたしました。

(石黒)

乙女のつぶやき《事務員日記》

もうすぐ雪が降り、今年も終わりです。私にはあつという間の二年でした。素晴らしい出逢いがあり、さみしいお別れがありました。いい事も、悪い事もありました。これも全てご縁。無駄な事はひとつもないのだと思います。お陰様で笑顔でいられます。感謝してまします。ありがとうございます。

(山崎)





うやうやしく報恩講を迎えたいと思います。
(世話役 乗木)



あら写さなくていいよ。(仏婦 木村)



お茶を飲んでいただいで幸せです。(仏婦 熊谷)



両館はいい所ですね。御伝鈔がすばらしかったです。
(御講師 清水先生)



今日は忙しくてだめだ。明日はもっと忙しいんだよ。(仏婦 田島)



報恩講 ありがとうございます。 おかげさま。



御別院の報恩講ありがたいです。
(組長 村上氏)



合掌童子の書展
良かったです。
(西教寺 御一行)



良い子にすればおみやげがもらえる？(龍谷幼稚園)



すばらしい雅楽の：(法中 阿部氏)



まだピンときませんが、とりあえず忙しいという事だけは。(野田 参勤)

Q&Aコーナー

教えてお寺さん!
ご門徒さんのご質問にお答えします

Q

1999年も終りですが
別院の除夜の鐘を打つ時
私たちでも打てますか?

A

はい、打てます。午後11時30分より本堂で除夜会のお勤めの後、来られた方全員が打てます。鐘について百八つの煩惱を消す、といったような事ではなく、阿弥陀さまの「必ず救う」の願いが人々の心に“響流十方”と響きわたるようにと念じながら、力いっぱい打つのです。今年最後の時間をお寺ですごすのも有り難いご縁です。ぜひみなさんで打ちに来て下さい。

ご門徒さんいらっしや〜い



見付商店 函館市松川町41-4
社長 見付直吉さん

このお店は九十歳のおじいちゃんと八十五歳のおばあちゃんの二人で経営しています。昭和二十六年に開店し、四十八年が経ちました。当初は学用品店として始めましたが、その後、食料品や日用品全般を扱うようになりました。店を休むのは年に一日、元旦だけです。今でいうコンビニエンスストアです。

開店当時には、深瀬病院や市営アパートはまだ建設されておらず、まわりはセリやクワイが生え、どじょうがいるような、のどかな風景が広がっていました。

徐々に住宅が建ち並び、昭和五十四年には八幡通りが拡幅され同時に店の方も改築しました。現在では松川町の街並みは一変し二人も年老いてしまいました。しかしお客様の要望に応じていこうとする気持ちは、開店当初から変わっていません。休みが年に一日しかないのも、様々な商品を取り扱っているのもそのような気持ちからです。お近くにお立ち寄りの際には、是非御来店下さい。

ミッキークラブ

お母さんがお仕事を
持っておられる方、
急に一日用事で出かける方、
安心してお出かけ下さい。

ミッキークラブ
でおあずかりします。

対象 龍谷幼稚園生並びに
2歳以上の弟妹

担当 古澤 妙子先生
(元龍谷幼稚園主任)

お問い合わせは
龍谷幼稚園 ☎ 23-0274
ミッキークラブ ☎ 27-4304

退職のごあいさつ

「お世話になりました」

廣澤 慶嗣

この度、九月三十日をもって自坊へ帰らせて頂きました。急な話でありまして、皆様に挨拶もきちんと出来ませんでした。どうぞ御無礼をお許し下さい。

函館には二年半程でしたが、とても有り難い二年半でありました。皆様には、いつも暖かく迎えて頂きまして大変感謝をしております。本当にどうも有り難うございました。

函館の街、函館の人、とても素敵なお店がありました。勝手な予定では、あと二、三年後には函館の人と結婚でも?しうかなあなどと考えたりもしておりました。名残は惜しいのですが、また新しいところで精一杯させて頂けたらと思う今日この頃であります。

北海道はこれから、雪も降り寒さも厳しくなることかと思えます。皆様お身体の方、どうぞお気を付けになられまして。またどこかでお逢いさせて頂くこともあるかと思えます。その時はまた、嬉しそうにお話させて頂けたらと思うことでもあります。

「退職挨拶」

黒田 徹也

この度十月末日をもちまして、函館別院を退職し、北九州の小倉に戻る事となりました。奉職させて頂いた七年間を振り返りますと、毎日の仏事・別院行事に右往左往して、その場を取り繕うことしかできない日々であり、私であったように思えます。

そのような私に、家族のようにいつも温かく迎えて下さったご門徒のみな様をはじめ、たくさんの方々のお声懸けがなかったら...と感謝の思いでいっぱいです。当地で出逢ったみな様と共に経験し学んだことは私の宝です。一日二日を精一杯生き抜いていく力をお授け下さいました。

心より御礼申し上げて退任の挨拶と代えさせて頂きます。



壮年会・婦人会へのお誘い

冷気冴え、樹々が色づくこの季節は報恩講の季節でもあります。婦人会会員がこぞって別院へ集い、聞法にいそしみ、そして、お斎作りに精を出す賑わいの時期です。昔の報恩講を語る人、神妙に耳を傾ける人、先達の知恵に触れ、別院婦人会創立百十余年の歴史と伝統が甦える一瞬です。

月一回の例会は、お寺さんを囲んで、宗教談義に花を咲かせ、ひいては時の社会情勢にまで話が弾みます。

八月恒例の一日研修旅行は、他寺を訪問参拝後、清風を頬に、皆でゆったり温泉にひたる数ある楽しい年中行事の一つです。連盟の世界仏教婦人大会が、四年毎に開催されておりますが、「世界はみな同朋」の教えのもと、この大会で発足したダーナの活動が、各国仏教婦人会相互の強い絆で進められております。私共の「あゆみの箱」の浄財は、各国への緊急援助など主として宗派をこえて国境を超えて贈られております。

社会が複雑化している現代、心の貧しさが指摘され、宗教のあり方が見直されておりますが、「念仏の声を世界に子や孫に」の宗門スローガンを目差して、私共仏教婦人は、今どのように行動すべきか、本願寺仏教婦人会創立の原点に返りながら、この永遠の課題に積極的に取り組む婦人会でありたいものです。聴聞のいつ時いつ時が与えてくれる法悦の世界は、この活動の原動力として、大きな力になるはずです。み法の輪の中で、共に聴き、共に考え、共に歩もうではありませんか。

多くの方々の入会を婦人会会員一同お待ちしております。

婦人会会長 本間温子
〈毎月二十三日定例会〉

雨嵐に落とされてた未だ青いもみじの葉が、別院への路傍の水たまりに浮かんでいた。日頃はこの美しさを見つめることもなかった。何度か山門を潜りつつその都度惱みの深きわが心を思う。十年前圧死されそうな空気の重みに耐えかね、呼吸するも苦しいながい刻を過ごした。歌登順信寺の祖母から送られた小冊子をふと手にし親鸞聖人のみ教えに遣う御縁をいただいた。

代々の門徒でありながら不信の極み己葉大きな誤解の中にあり、宗旨変えをもと思うこともあった。

大辻子仰信様、永江龍心様、熱心にお説き下さる御法話もわがこととして味わうことのできなかった私。その私一人のために休まず倦まずみ光を注いでおられました。如来さまのお慈悲に今はただ詫びたるばかりである。導いてくれた二十歳長男の死の恩徳に合掌あるのみ。あのつらい日々、雨に打たれるライラックの花を眺めつ、むなしく土に跳ね返る雨の滴りの絶望を

地にもその甘き香りを吸はせんと

ひたぶるに雨リラに降るなり

と嘆息した自分だったが、歎異抄に涙した時から、大地は間違いなく甘きリラの香りを吸いこんでいてくれることを信じる、深呼吸の出来る身とさせていただいた。詩偈に「月落ちて天を離れず」とあった。「子死して天を離れず」阿弥陀如来様の懷に抱かれている子は夢に笑顔であった。

壮年会会員一人一人、口には出せぬ人生の苦悶を抱き、あえては語らず、み佛の前に座し経を掲り所、南無阿弥陀仏の六字の鏡に己を写し共に同じ道を歩む幸せを思う。

壮年会会長 梶原佑偉
〈毎月十五日夜例会於本堂
テキスト「季刊せいてん」〉

「修正会」

日時 1月1日(土)
元旦 午前7時より
会場 本堂にてお勤め

「除夜会」

仏教壮年会・甘酒等ボーイスカウトかがり火付番のご奉仕で皆様をお待ちしております。
日時 12月31日(金)
午後11時30分より
会場 本堂にてお勤め
引き続き 除夜の鐘

「南無の会」

日時 11月7日(日)
午後1時開演
会場 西別院文化会館
会費 1,000円
講師 立松 和平氏

第4回 ほのぼのお念仏の集い

温泉

食事

演劇

お笑い

法話

期日 平成11年12月5日(日)～6日(月)
会場 函館湯川観光ホテル
会費 10,000円 詳しくは別院までお問い合わせ下さい

どなたでもご参加いただけます。参加ご希望の方は別院まで11月15日までに参加費を添えてお申し込み下さい。

お寺へ行こう

ようこそ常例布教へ

- 十一月十一日(木) 職員法話
- 十一月十二日(金) 北海道教区後志組
- 十一月十五日(月) 本念寺 中茂保則氏
- 十一月十六日(火) 正光寺 高松周環氏
- 十一月十九日(金) 親鸞大学 [13時30分より]
- 十一月二十一日(土) 職員法話
- 十一月二十二日(日) 北海道教区函館組
- 十一月十五日(水) 西教寺 吉村善充氏
- 十一月十六日(木) 親鸞大学 [13時30分より]

土曜の会へ行こう

●十一月二十七日(土)

(午後一時三十分より)
会場 日吉町熊合宅にて
※十一月はお休みです
お問い合わせ ☎(0138)54-6859

浄書(写経)の会

●十一月八日(月)

●十一月六日(月)

会場 別院内堂
(午前十時より)
※現在は讃佛偈の写経を行っています。
初めての方もどなたでも参加下さい。

お西さん十月/十二月行事一覽

- 十一月 七日(日) 南無の会講演会 [13時より]
- 十一月 二十三日(火) 仏教婦人会報恩講 [13時30分より]
- 十二月 十六日(木) 三会同報恩講 [18時より]
- 十二月 三十一日(金) 除夜会 [23時30分より]
- 一月 一日(土) 元旦会 [7時より]

お悔やみ申し上げます

永代経懇志
ありがとうございました

お便り大募集



仏教に関するご質問等、どんなことでも結構です。「お西さん」にてお答えしますので、編集部迄お手紙でお寄せ下さい。又、詩・短歌・俳句・マンガ等も募集しています。どうぞ、お気軽にお便り下さい。

お問い合わせ ☎(0138)23-0647

第5回全道仏壮研修大会

期日 平成11年11月20日(土)・21日(日)

講師 足利孝之氏

参加費 14,000円 ※問い合わせは別院まで

●テレフォン法話順番表●

- 10月31日(日)~11月6日(土)…吉村 ●12月5日(日)~12月11日(土)…副輪番
- 11月7日(日)~11月13日(土)…高倉 ●12月12日(日)~12月18日(土)…野川
- 11月14日(日)~11月20日(土)…石黒 ●12月19日(日)~12月25日(土)…布教使
- 11月21日(日)~11月27日(土)…布教使 ●12月26日(日)~1月1日(土)…野田
- 11月28日(日)~12月4日(土)…輪番 ●1月2日(日)~1月8日(土)…山岸

24時間お好きなときにいつでもどうぞ

☎0138 27局 2424番

編集後記

▼十月の報恩講さんが終わると函館も本格的な冬仕度の季節がやってきます。今年の夏は猛暑でクーラーが欲しくてたまりませんでした。寝苦しい夜のときは、車で夕涼みのドライブに出かけたことでした。車にはクーラーが付いているので二時ではあるけれども、快適な時間を過ごすことができました。

しかし北海道の夏は駆け足で去ってゆき、朝晩の冷え込みといったらもう、「さっぶら」と声を上げているうちに、もうすぐ白いものが降ってきて町をスッポリと覆う季節と共に、2000年の時代がやってきます。いまこそ真っ白な雪のごとく私の心もまっさらにして「恩」ご恩と除夜の音が心に響き渡るよう、仏さまの願いをお聞かせ頂きたいものです。
(黒田)

▼先日、雨上がりの朝、台町出張所の玄関を歩くと海の上に大きな虹が架かっています。御門徒の皆さんに「だいまちはさみしくありませんか?」とよく聞かれますがこんなに素敵な景色を見れるのは私に得をした気分です。
(高倉)



龍谷便り



幼稚園では、9月8日
敬老の日にちなみ、住
吉町にあるベイサイド病院
に慰問に行ってきました。会場

と時間の都合により全園児参加とはいきませんでした。園児たち
で作ったカードを持参して30名余りの子供たちが歌や踊りを披露し
ました。毎日通っている幼稚園との違いに初めは戸惑っていた子供
たちでしたが、そこは順応性のはやい子供たちです。おじいちゃん、お
ばあちゃんの笑顔に迎えられ、子供たちの緊張も次第に解けていき
ました。歌や踊りを披露している一生懸命な子供たちの姿をみたお
じいちゃんやおばあちゃんの中には涙を浮かべる人がいたり、終始拍
手をしてくれたりととても喜んでくれていました。短い時間の中
でそんな触れ合いの中できっと子供たちの心の中にも今までにはな
いような気持ちが芽生え始めたのだと思います。そんな気持ちをい
つまでも大切にしてほしいと願っています。

高橋 裕子 先生



平成12年度 園児募集

人の心のやさしさ(慈悲のこころ)を伝える宗教教育、それが **龍谷幼稚園** です。

願書配付

平成11年

11月10日 水

13:00から

願書受付

平成11年

11月24日 水

13:00から

お問い合わせは **龍谷幼稚園** ☎23-0274

